

頭部の重量は全体重の約1割に相当します。可動性の高い頸部は非常に筋疲労を起こし易部位になります。また、様々な体調の不良にともない首肩の症状を訴えるケースが多いです。全身の体調と深い関係がある部位とも言えるのが頸部・首です。



一般的な頸部に関する疾患

頸椎症性神経根症

きっかけなく頸が痛み、腕、手の痺れを伴う場合もあります。うがいなどで頸を後屈した時などでも痛むことがあります。レントゲン検査では頸椎に骨棘形成やヘルニアなど変形が確認できる事が多く、神経を圧迫している画像が確認されます。痛みは片側で、肩甲骨周囲まで痛む場合も少なくありません。

急性頸部痛/寝違え

俗に「寝違え」は、睡眠中の不自然な姿勢の持続により頸部の筋・筋膜に炎症が起る事で発症するとされています。目覚めた時点から頸部から肩、背中にかけて強く痛み出て、頸部の動きが不自由に制限されます。

頸椎捻挫/外傷性頸部症候群（むち打ち症）

頸椎捻挫の多くは、運動時の外傷などで発症します。俗に「むち打ち症」と呼ばれ、交通事故での外傷による頸椎捻挫は、現在は外傷性頸部症候群として取り扱われています。交通事故後遺症のページもご参照ください。

頸部痛に対する一般的な治療

頸部筋へのリドカイン注射

鎮痛薬の処方

物理療法（牽引・温熱療法・低周波治療器・鍼その他）

徒手療法、運動療法 など

頸部痛に対する遠絡統合療法

遠絡統合医学では、アトラス（第1頸椎）のレベルを重要視しています。アトラスの上はすぐ脳になります。脳の最下部の延髄には、副交感神経の役割をしている迷走神経や首肩の筋肉をコントロールしている副神経が出ている所です。首肩の症状だけでなく全身の疾患に関係する部位ですので、非常に重要な場所と言えます。

レントゲンやMRIといった画像検査に映る情報だけではなく、血液、リンパ液、脳脊髄液の流れが保たれているかどうかによって、体調に大きな影響を及ぼします。中枢神経系の問題を改善することで痛みが改善できること以上に身体に貴重な影響を及ぼします。

頭と胴体の境界となるのがアトラス(第一頸椎)です。この高さから首全体にかけて治療します。

中枢神経系の機能を再建する事は、頸部痛を根本的に良くすることにつながります。

頸椎から波及する腕、手の症状

- 手・腕の外側 ⇒ 主に頸椎レベルからの影響
- 手・腕の内側 ⇒ 主に胸椎レベルからの影響
- 手・腕の親指側 ⇒ 主に腰椎レベルからの影響

遠絡統合医学では、神経機能の障害を神経細胞と神経線維に分けて分析しています。

痛み症状は神経線維の障害になります。神経線維の障害が修復されるためには、血液やリンパ液、電解質が十分に循環する必要があります。遠絡統合医学では、神経系の伝達も含め、血液やリンパ液、電解質などの流れを総称してライフフローと呼んでいます。スムーズなライフフローが十分に確保されている事は自己の修復力、治癒力に直結します。遠絡統合療法の目的はライフフローを調整する事にあります。つまり、身体の自己治癒力を再建させる事になります。「長く患っている」「症状が変化しない」という状態の根本に対してのアプローチができます。

症例 1 女子児童

体育の授業で、でんぐり返しの練習中に首を痛めての受診、頸部を左に曲げてうつむいた状態から動かせないほどの痛みで来院されました。

まず、頸椎レベルの治療を行ったところ痛みの軽減を確認されました。続いて延髄レベルの治療を行ったところ首のこわばりが解け始め、自由に首が動かせるようになり、痛みも大きく解消されました。

症例 2 70代 女性

斜め上方を見上げながら手を伸ばした瞬間、頸が引っかかるような感覚と共に痛みが走りました。それ以来、首を動かす事に恐怖心を覚えてしまったとの事でした。初診時には、後頭部から背中にかけて重い痛みがありました。

治療対象は、第一頸椎から首全体にかけての治療を行っています。治療後は、頸の運動にスムーズさを感じ、肩から上が軽くなったとの感想でした。外見からも背筋が伸び軽やかな歩き方になっていました。

週1回の治療で3~4回行ったところで、生活中的首の不快感を意識する事なく生活ができるようになりました。肩こりがひどくなったり、疲れが溜まり首が重くなり始めた時に身体のメンテナンスで治療をしにご来院されています。

解 説

首は頭と体をつなぐ重要な器官です。ちょっとした不調から自律神経系の症状に波及したり、知らず知らずのうちに脳の機能が低下してしまっている場合があります。遠絡統合医学では大変重要な部位の一つとして丁寧な治療を心がけています。